

## 令和6年能登半島地震に係る本院の災害支援・救護活動について

大阪大学医学部附属病院長

この度の令和6年能登半島地震で亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

大阪大学医学部附属病院は、災害支援・救護活動として下記の通りDMAT第1隊～第4隊を派遣し、救護活動を行いました。

### ◆◆第1隊◆◆ 活動期間：1月10日(水)～1月14日(日)

- ・1月10日(水)夕刻に、医師1名、看護師1名および業務調整員2名の計4名、DMATカーで現地に派遣した。
- ・第1隊は、石川中央DMAT活動拠点本部（石川県立中央病院に設置）において、本部長業務を含む本部業務を引き継いだ。
- ・近畿ブロックから参集した約30隊のDMAT隊の主な任務は、被災した能登地域の入院患者、高齢者施設入所者を比較的被害の少ない金沢地域に移送するための搬送調整、および一時的な受け入れ場所の運営であった。
- ・上記任務を遂行するために、DMAT活動拠点本部では、DMAT活動指揮、搬送調整、搬送指揮（搬送班を含む）、通信・記録、情報分析の組織づくりと維持を行い、病院支援指揮所（メディカルチェックセンター：MCC）、施設避難者一時待機ステーション（能登地域の高齢者施設入所者で受け入れ先が決まっていない方の一時待機場所）での業務の割り振りを行った。
- ・1月14日（日）夜、5日間の活動後帰院した。

### ◆◆第2隊◆◆ 活動期間：1月17日(水)～1月21日(日)

- ・1月17日(水)、医師1名、看護師2名および業務調整員1名の計4名をDMATカーで派遣した。
- ・いしかわ総合スポーツセンター内に設置された施設避難者一時待機ステーションでは、被災地域からヘリや陸路搬送車で搬送されてくる高齢者の方々を一時的に集約し、被災地外の施設に入所していただくまでの間、管理した。具体的にはメディカルチェック、受け入れ手続き、夜勤帯を含めた有症状者への緊急対応、医療機関への搬送調整、搬送など多岐にわたる業務を展開した。
- ・第2隊は、一時待機ステーションにて、本部長業務、副本部長業務、夜勤対応、各部署のサポート、現場システムの整備と業務改善、各隊への役割の割り振り、DMATカーによる搬送などさまざまな役割を果たした。
- ・1月21日(日)夜、5日間の活動後帰院した。

◆◆第3隊◆◆ 活動期間：1月21日（日）～1月24日（水）

- ・ 1月21日（日）、医師1名、看護師2名および業務調整員1名の計4名を派遣した。
- ・ 施設避難者一時待機センターで受付部門リーダー業務を引き継ぎ担当した。珠洲市の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設からの入所者の受入れミッションを遂行した。
- ・ 比較的要介護度が低い（杖や車いすなどを使用しながら移動できる）入所者が最大120人生活している「サブエリア」のリーダー業務も担当した。愛知県へのバス移送ミッションを遂行した。
- ・ 発熱患者が増えており、隣接するいわゆる一般的な避難所で活動する災害支援ナースを支援しつつ感染コントロールを行った。新型コロナウイルス感染症、ノロウイルス感染症も発生しており、入院調整を要した。
- ・ 大雪の影響でやむを得ず延泊することとなり、1月25日（木）、5日間の活動後帰院した。

◆◆第4隊◆◆ 活動期間：1月24日（水）～1月27日（土）

- ・ 1月24日（水）、医師1名、看護師1名、業務調整員1名および救急救命士1名の計4名を派遣した。
- ・ 施設避難者一時待機センターにおいて、阪大DMATの第3隊に続き、本部部門業務を担当した。避難所や珠洲市の高齢者施設のみならず、市中病院で退院先が確保できない患者さんの一時受け入れのミッションも負うことになった。
- ・ 各DMAT隊の役割分担の決定、移送に関わる時間調整や受け入れ予定の入所者の一覧リストの作成、各々の要介護度の確認とそれに応じた受け入れ先調整を行った。
- ・ 転倒や体調不良の入所者のピックアップ、診察、受診要否判断、搬送調整を行った。体調不良者の中にはコロナ陽性もあり、ベッドコントロールも担当した。
- ・ 行政機関（県庁、警察）や物品管理会社（阪急交通社）、薬剤師や介護士の団体代表者の訪問に対応した。
- ・ DMAT撤退後に現地の介護士や看護師に業務を移管するために必要なマニュアル作成を手がけた。
- ・ 1月27日（土）、4日間の活動後、DMATカーで無事帰院した。

（令和6年3月1日）